

まとめと提案

「地球1個分の暮らし」の提案

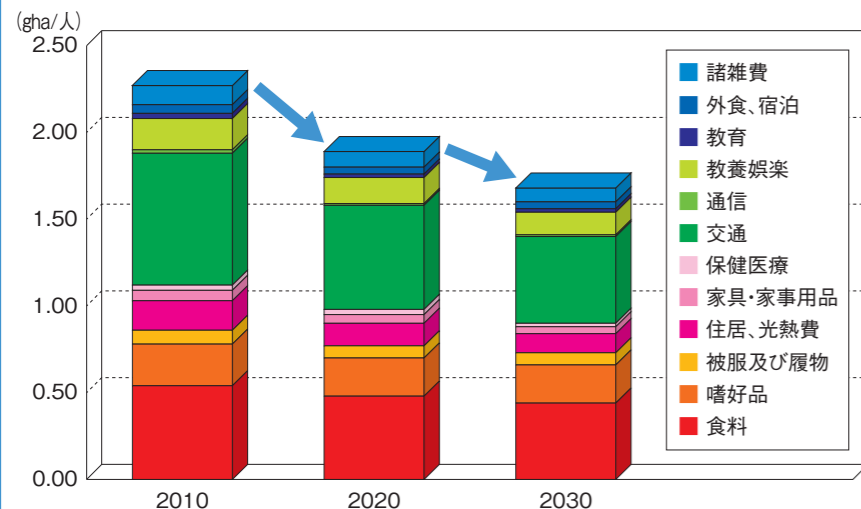
京都市をはじめとする日本の都市の環境負荷は、世界平均と比べると概して大きい。環境負荷のより小さい、持続可能なまちづくりの実現は世界の先進都市の手本となるだろう。具体的には、環境負荷を考えたライフスタイルとして「選・減・新」の3つの行動指針を、あらゆる場面で実行していくことが大切である。

地域の特徴があらわれる統計データを集めて分析することで、京都市のエコフットが日本平均より低かった要因が明らかとなり、政策に生かすことができるだろう。とくに、食品ロスなどを含む食のフットプリントなどについて個別具体的な調査を継続することで有効なアプローチが見えてくるはずだ。

各方面での取り組み事例

	選(選ぶ)	減(減らす)	新(新たな取り組み)
国および自治体	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ないライフスタイル(住・食)推進政策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂削減目標の強化と政策の実施 廃棄物排出量の削減推進策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの創出と利用促進政策の拡大 環境基本政策に持続可能性の指標を取り入れる
事業者	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な原材料を利用するための責任ある調達方針の設定と実行 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂削減目標の設定と実行 地域の自然環境に与える負荷の削減 投入する自然資源量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの創出または利用 効率よい資源利用のための技術革新
個人	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な生産の証である認証品(海のエコラベルMSCなど)の購入 省エネ製品の購入 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な冷暖房温度の設定、LED照明の利用などでCO₂削減 食品ロスの削減 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの利用または発電事業者への支援


エコフットを減らすには



京都市の温室効果ガス排出量削減目標：2030年度に1990年度比40%減

もし、この目標が世界中で達成され、京都市民の暮らしを世界中の人々がしたら、エコフットは30%近く減少し、地球1.4個分の負荷になる。(GFN試算による)

このリーフレットは、京都市、グローバル・フットプリント・ネットワーク、いであ(株)、WWFジャパンが2016年に共同で実施した調査報告をもとに作成しました。詳細はWWFジャパンのサイトをご覧ください。https://www.wwf.or.jp/


 私たちはWWFです
 人と自然が調和して生きられる未来を目指して、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。
www.wwf.or.jp

WWFジャパン(公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン)
 〒105-0014 東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6F
 TEL:03-3769-1711 FAX:03-3769-1717



2016年3月発行

©1986 Panda symbol WWF ® WWF is a WWF Registered Trademark



エコロジカル・フットプリント地域版レポート vol.1

千年の都から、次の千年の未来へ

～京都市のエコロジカル・フットプリント調査からわかること～



私たちの心やからだの健康は、大気・水・土壌はもちろん、食料や木材、医薬品などの自然から得られる恵みによって支えられています。それらを生み出す山、川、海などの自然および地球環境が健全に保たれなければ、私たちの社会は持続できないでしょう。

WWFは、すべての人や生きものが健やかで、心地よい暮らしを送ることのできる未来を望んでいます。いま、世界の人々は、かけがえのない地球の未来を守るため、ひとつになって行動する重要な時代を迎えています。

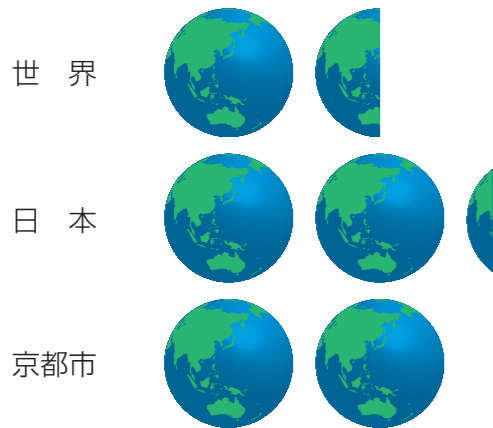
この行動を促す方法のひとつとして、社会の持続可能性を測る世界共通のものさしである「エコロジカル・フットプリント*」があります。今回、京都市は日本の自治体として初めて試行的に、自らのエコロジカル・フットプリントを算定しました。

*エコロジカル・フットプリント(=エコフット)

調査結果

世界中の人々が京都市民と同じ暮らしをしたら、地球2.0個分の資源が必要

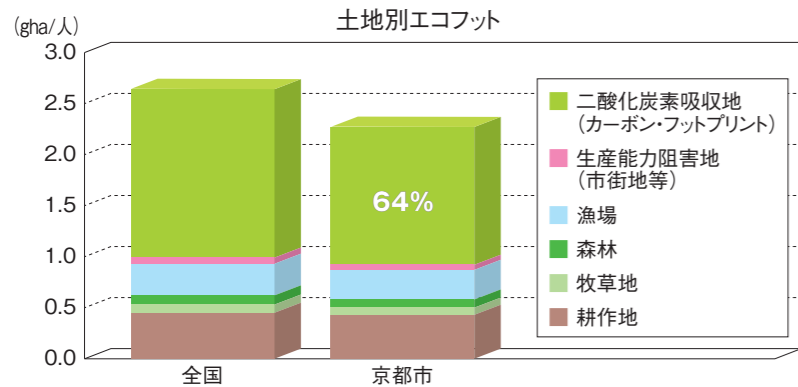
世界中の人々が日本人と同じ暮らしをしたら、地球2.2個分の資源が必要
 世界の人々が今の暮らしを続けるには、地球1.5個分の資源が必要*



京都市のエコフットは、
世界平均より**30%大きい**
日本平均よりは**10%小さい**

*地球1個が供給できる資源量を上回る生活になっている。これは自然の回復力を超えて、私たちが消費を続けていることを意味する。

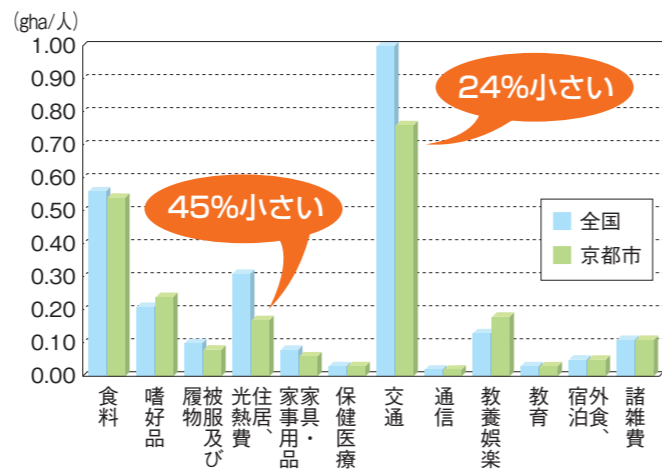
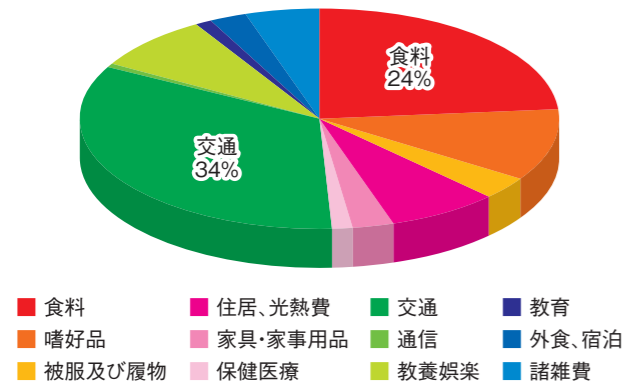
京都市のエコフットは、
二酸化炭素の排出に関わる要素が全体の**64%**を占める



消費に必要な土地別に見ると、二酸化炭素を吸収するために必要な土地面積が最大である。全体として日本平均と同じ傾向にある。

京都市のエコフットを消費項目別にみると「交通」、「食料」の占める割合が大きい

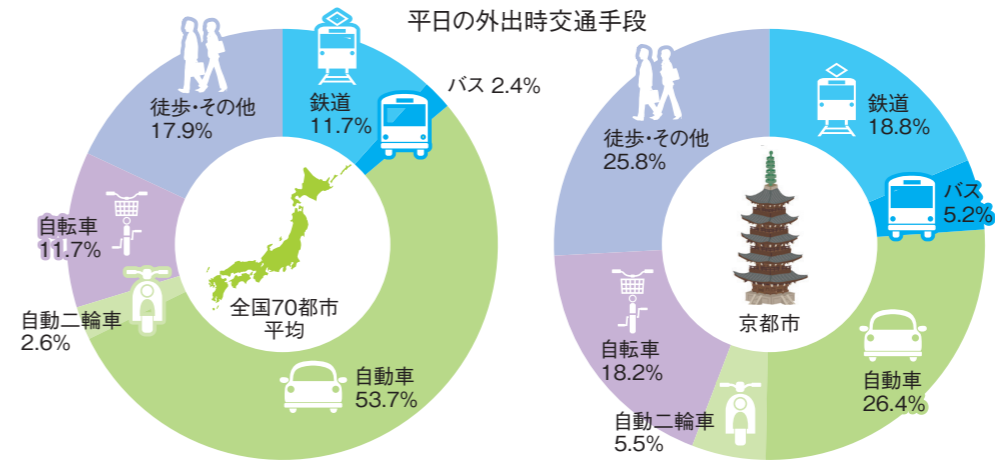
京都市(2010)消費項目別エコフット



全国平均と比べると、「交通」、「住居、光熱費」が小さい。

分析

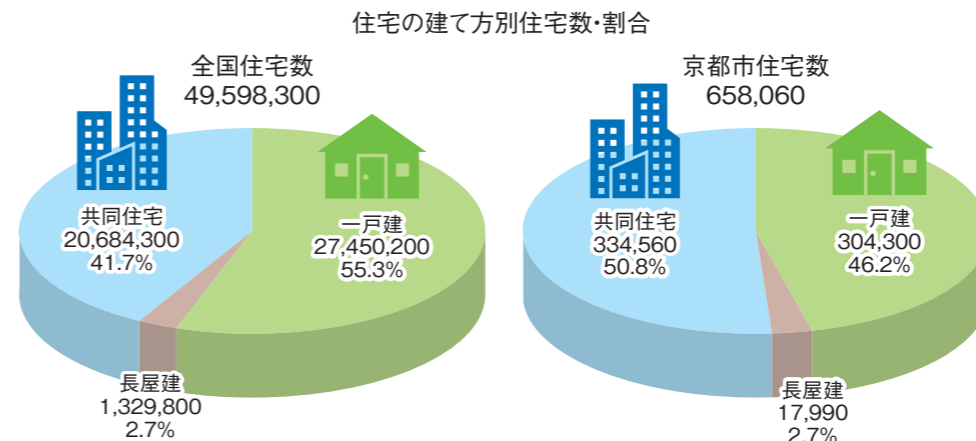
「交通」が小さい理由は、公共交通機関の発達と利用とみられる



(出典:国土交通省「平成22年度全国都市交通特性調査」より作成)

京都市は全国70都市平均よりも鉄道、バスの利用率が高く(各々7.1ポイント↑、2.8ポイント↑)、自動車利用率が顕著に低い(27.3ポイント↓)。なお、自転車、徒歩等の割合も高い(各々6.5ポイント↑、7.9ポイント↑)。

「住居、光熱費」が小さい理由は、寒冷地ではないこと、共同住宅の割合が全国平均より9ポイント高いこと、都市ガスの利用が多いこと、などが考えられる



(出典:総務省「平成20年住宅・土地統計調査」より作成)

2010年当時、京都市民に供給される電力はCO₂排出係数が低い原子力発電の割合が高かったため、エコフットが低く出た。ただし、原子力発電の負荷によるフットプリントは、現時点では十分に反映されておらず研究途上である。

エコロジカル・フットプリント(エコフット)とは

人間活動が地球環境に与える負荷を示す指標。人間の地球に対する資源需要量と地球が1年間に生産できる供給量を比較することで持続可能性を測る。森林、漁場、耕地、牧草地など6つの土地面積に分けて計測する。

エコフットでわかることとわからないこと

森林、海洋、二酸化炭素など環境への負荷を包括的に扱い、自然資源が有限であることを視覚的に理解できる。世界各国で比較可能である。一方で、淡水の取水、再生不可能な資源の消費は含まれていない。また人間以外の野生生物が必要とする資源は含まれていない。

本調査のエコフット計測方法

分析方法: まず日本の土地別エコフットを、環境拡張型産業連関分析を用いて、(全国平均)消費土地利用マトリックス(CLUM)に変換する。それを、全国平均と比較した京都市の家計支出とエネルギー効率データで補正し、京都市のエコフットを算出する。なお、その結果は、京都市民のエコフットであり、観光客の消費は含んでいない。

使用データ: 「国別フットプリント勘定(NFA)」、消費土地利用マトリックス、家計消費支出、消費者物価指数、二酸化炭素排出係数

京都市のプロフィール

- 人口: 1,474,015人
 - 人口密度: 1,782人/km²
 - 政令指定都市(1956年指定)
 - 市内総生産(実質): 6兆2153億円
 - 面積: 827km²
- (出典:京都市統計ポータル, 2010年データによる)

